

『私は役立たず』

自分は役立っている、自分は世間に必要な人間、自分は成功者、そう思っていて生きていますと
老いて、何かできなくなったり、物忘れしたり、
あちこち痛かったり、疲れたり
そんな普通のこと、自然なことが、
どうしても受け入れることができない
悲しみや、苦しさや、怒りや、絶望に襲われる
私は役立たず

私はたくさんの方に生かされている
私を生かしてくれてありがとう
できることだけ、できる時だけ、がんばろう

そんなふうに毎日、にこにこ、生きたなら
多分、老いは怖くない、死も怖くない

役立たずはとても大切
役立つことだけが、大切なんて誰が教えたのか

存在することが、存在したことが大切
私がいるから、誰かと繋がり、私がいだから、誰かに繋がり
誰かと誰かが、繋がり、皆が大きなひとつの役になる

一人一人は、役立たず

とても尊い、とても愛しい役立たず
生まれて、生きて、老いて、朽ちて、土にかえる
そうしてまた、大きなひとつの役になる

上記の文は、北海道の在宅医の金谷潤子先生からのメッセージです。
とても感銘を受けたので、今月の言葉として皆さんにシェアいたします。

てのひらでは、「看取り期における関わり方」が、強みと言えるよう、
みんなで学んでいきたいと思っています。
その前に大切なことは、一人一人自身の「死生観」を持つことです。
これこそが「看取りの心」を育むことに繋がります。私の死生観は、メメントモリです。

今、関わらせて頂いているお一人お一人の方に最善を尽くせるようなチームを創って
いきたいですね。

てのひらのスタッフ一人一人が持っているすばらしい力があります。
いつもとても誇らしい仲間だと思っています。
今後も力と心を合わせて、「そろ〜り、そろ〜り」と
やっていきましょう！

「優しく、頼もしく、美しく」

今月もありがとう、お疲れ様でした。

令和4年3月10日

呉静恵

